

プロフィール

岸 博一（きし ひろいち）
 昭和 29 年 12 月 1 日
 羽咋市旭町生まれ（69 歳）
 趣味：ウォーキング、旅行

略歴

石川県立羽咋高校卒業
 明治大学 法学部卒業
 S52 ～羽咋市職員
 羽咋市企画財政課長
 羽咋市教育次長
 羽咋郡市広域圏事務組合 事務局長
 羽咋郡市建設資材協同組合 事務局長
 H30 ～羽咋市議会議員
 R2 ～ 羽咋市長（1 期）



きし 博一 後援会事務所

〒925-0033 羽咋市川原町テ53番地1
 TEL 0767-22-3188 FAX 0767-22-3198

あし
 博一

羽咋市長

討議資料

羽咋を明らかに変えた
 4年間の実績

震災直後からの羽咋市の対応

一部抜粋

地震が発生してからの約 1 ヶ月間は、本当に大変な時期でした。地震が起きたその日、すぐに災害対策本部を立ち上げ、市内の子どもたちや教職員の無事を確認することから始めました。

水の確保は急務でした。飲み水の備蓄を開放し、翌日には漏水箇所の修理を進め、市民の皆さんには生活用水を確保するために井戸の開放にご協力いただきました。

避難所では、衛生面が大きな課題となりました。郡市医師会の協力を得て救護所を設置し、感染症対策を徹底しました。インフルエンザなどの発生がありましたが、その蔓延を防ぐことができました。

子どもたちの心のケアを目的とした個別訪問は、**羽咋市が県内でいち早く開始しました。**将来的なトラウマを防ぐためにも、震災直後に適切なケアを行うことは極めて重要でした。1月4日には保育の受け入れを再開し、市外からの児童生徒も受け入れる体制を整えました。これらの取り組みは、「こども家庭庁」からも高く評価されました。

今後も、震災からの復旧・復興に全力で取り組んでいきます。そして、震災前よりも羽咋市をさらに発展させるためにも、様々な政策に挑戦していきます。そのために、「住まいの再建」、「なりわいの再建」、「コミュニティの再建」を柱として、「未来につながる復興」に取り組んでいきます。市民一丸となって震災を乗り越え、明るいまちづくりを進めてまいりましょう。

1月1日
 ~2日

1月1日 16時10分 地震発生

- ▼災害対策本部を設置
- ▼市庁舎で住民約 1000 人の避難受入
- ▼各小中学校の児童生徒・教職員の安否確認
- ▼飲料水や生活水の配布・供給を開始
- ▼災害ボランティアセンター開設決定 (1/12 開設)
- ▼郡市医師会に医療支援を依頼
- ▼市内各施設の被害状況確認
- ▼り災証明受付開始

1月3日~

- ▼余喜公民館で保育受け入れを開始
(余喜保育所が被災し使用できないため)
- ▼子どもや保護者の心のケアのための個別訪問を実施
- ▼ユーフォリア千里浜で無料入浴支援を開始
- ▼郡市医師会による巡回訪問を開始
- ▼避難所での感染症対策を開始
- ▼道路の応急点検や応急修理を開始(県や建設業協会と協力)
- ▼被災住家へのブルーシート配布開始 (約 6,000 枚配布)
- ▼一部の施設を自衛隊の奥能登支援拠点として提供

1週間以降

- ▼市外の児童生徒を羽咋市で受け入れ開始
- ▼生活保護者等の安否確認を実施
- ▼ホームページや広報等で災害支援の情報を発信
- ▼福祉避難所を開設 (国立能登青少年交流の家)
- ▼仮設排水管による下水道の復旧作業を開始
- ▼り災家屋の被害認定調査を開始
- ▼文化財レスキュー開始

1ヶ月以降

- ▼ワンストップ型の被災者相談窓口を設置 (2/1~)
- ▼支援制度等について町会説明会を実施
- ▼液化化地区の在地の応急危険度判定を実施
- ▼要配慮者への個別訪問相談等を開始

全力で市政を前進させた4年間

子育て支援

“3つのゼロ政策”で子育て環境が大きく改善

- ▶ 保育所の**利用負担ゼロ**
- ▶ 学校給食の**完全無償化**
- ▶ 18歳まで**医療負担ゼロ**



まちづくり

宅地開発と道路整備で住みやすさが向上

- ▶ 千里浜ヒルズ開発
- ▶ LAKUNAはくいオープン
- ▶ 国道415・159号の整備が大幅前進



デジタル化

行政サービス等の利便性を向上

- ▶ キャッシュレス決済やコンビニ納付の導入
- ▶ LINE公式アカウントの新設
- ▶ 電子回覧板の導入



統計史上初、羽咋市の人口が 転入超過を達成！

これまで行ってきた「子育て支援」や「宅地造成」などの政策が実を結び、令和5年度に羽咋市に移住してきた人数（転入者）が、出ていった人数（転出者）を上回りました。羽咋市の統計史上、初めての快挙です。令和6年度の転入者数も好調であり、今後も転入超過の傾向が続く見込みです。

高齢者支援

高齢者やその家族が安心して暮らせる環境を整備

- ▶ 家族介護の支援を強化
- ▶ 高齢者のタクシー利用を助成
- ▶ スマートフォン教室の開催



経済活性化

“なりわい支援”でビジネス環境を向上

- ▶ 起業や事業承継への補助強化
- ▶ 農業収入保険への加入促進
- ▶ UFO商品券の発行を大幅増



魅力づくり

観光や文化を向上させる政策を実現

- ▶ 妙成寺国宝化に向けて前進
- ▶ 市内の文化財の修繕を補助
- ▶ 外資系ホテルの誘致促進



人口はどうやって決まる？

▼社会動態と自然動態について

地方自治体の人口は、転入者数と転出者数の増減による「社会動態」と、出生者数と死亡者数の増減による「自然動態」によって決まります。現代において、少子高齢化の影響で自然動態はほとんどの地域で減少傾向にあります。そのため、人口増減においては「地域の魅力」や「住みやすさ」が影響する社会動態が重要な要素となります。

羽咋市は、この社会動態と自然動態のいずれもマイナスが続いていましたが、昨年、ついに社会動態プラスに転じました。これまでの政策が、ようやく目に見える形で成果を上げたのです。